

歯周病は歯周病細菌の感染によって歯の周りの歯肉が腫れ、骨が溶ける慢性炎症性疾患です。実に40歳以上の8割を超える人が何らかの症状を持つと言われています。最近、歯周病があるとさまざまな全身疾患(糖尿病、血管障害、肺炎、早産など)を悪化させることが分かっています。



徳島大学病院歯科・歯周病科
成石 浩司 講師

「慢性腎臓病」をこ存じでしょうか。腎機能の低下をきたす慢性腎臓病は、放置すると腎不全に至る疾患前病変の総称で2002年に米国で提唱された新しい疾患概念です。腎不全状態に陥ると透析治療を余儀なくされ、患者の肉体的、精神的、経済的な負担が大きくなります。従って、腎不全に陥る前段階にある慢性腎臓病の早期発見と早期治療が、医療現場の重要な課題となっています。

歯周病は万病のもと 腎臓病との怖い関係

腔から血管を通して全身を巡る歯周病細菌により、動脈硬化や高血圧が助長され、結果的に腎機能が低下する可能性があります。また、慢性腎臓病になると骨やミネラルの代謝異常によって歯の周りの骨量が低下し、結果的に歯周病の重症化が起こると考えられています。05年には、5000人を対象にした大規模調査において、歯周病患者は2倍以上の確率で慢性腎臓病を発症するリスクがあると報告されました。また、日本人を対象にした12年の調査でも、歯周病細菌に感染した患者は2・6倍の確率で慢性腎臓病を発症していたことが報告されています。

歯周病は日々の生活習慣を改善して常に口腔衛生を保つことで予防できます。一方、歯周病を早期発見するためには歯を磨くと出血する、口臭がある、あるいは歯がぐらぐらするなどの症状を自覚されたら、早めの歯科受診をお勧めします。歯周病は万病のもと。健康長寿のため、定期的に歯周病検診を行うように心がけましょう。

私達の専門分野では、歯周病と慢性腎臓病の関係が注目されています。歯周病になると口